

総括質疑

3月9日、令和8年度当初予算に対する予算決算常任委員会の総括質疑が行われました。

今回は、湯新会・公明1人、紫翠会1人、政和会1人の計3人が会派を代表して質疑を行い、令和8年度の各予算の内容についていただきました。

ここでは、質疑の内容の一部を抜粋して掲載します。



「湯新会・公明」
加藤 昭嗣 委員

湯沢市議会
YouTubeチャンネル
総括質疑の動画をご覧になれます。



■過疎対策事業債について

質疑 湯沢駅周辺複合施設整備事業等大きな事業もあり年々増加している状況だが、実質公債費比率や将来負担率など財政への負担を伺う。

答弁 実質公債費比率、将来負担率ともに警戒ラインを下回っており、今後もシミュレーションをしながら起債していく。

質疑 過疎債の増加によってこれから地域で期待や要望されている事業への影響について伺う。

答弁 湯沢駅周辺複合施設の関係で一般財源がそちらに充てられている部分も多いが、市民や地域の要望もできるだけ取り上げるよう予算に反映している。

■国内交流総務費について

質疑 各自治体と交流を進める上で考えている施策や防災、文化等の連携について、相手の受け止め方を伺う。

答弁 担当者レベルでは話をしているが全ての自治体ではない。まず来年度は釧路市と台東区から始めていく。

■伝統的工芸品等産業支援事業について

質疑 川連漆器に対する思いと今後の取り組みについて伺う。

答弁 時代の流れのなかで高級品となってきたと思うが、伝統を重んじながら新しいアイデアでさまざまなものを作り出していきたい。伝統産業として学校給食用漆器食器を導入し子供たちが触れる機会を作ったが、販路の拡大の面など今後も施策を打っていかねばならない。

質疑 存続が懸念されている湯沢市産業支援センターの活用状況について伺う。

答弁 もともと産業支援としての立ち位置で木工作業機械の利用が主になっている。今後どのような形で活用していくのか漆器組合とも協議を重ねていきたい。

■観光情報発信事業について

質疑 台湾に関してはこれまで市長のトップセールスを始めかなりの予算をかけてきたが、これまでの手応えについて伺う。

答弁 実際に宿泊者数や市内で昼食を食べるツアーも増えており手応えを感じている。今後もターゲットを台湾とし、必要があれば補正予算で対応する。

質疑 本人の意向もあるが、現在台湾出身で地域おこし協力隊で活躍している方を観光面などで活かすことが出来ないか伺う。

答弁 本人の希望は当然だが、これまでも協力いただいている。関係団体とも若干の協議は行っているが結論には至っていない。

■防災設備・備蓄品費について

質疑 防災行政無線について市民から聞き取りにくいとの声への対応について伺う。

答弁 その点は承知しているが、現状はテレビ閲覧板やLINE、電話自動応答ダイヤル、ホームページ、緊急防災メール等で確認できることを伝えている。

■複合公共施設管理運営費について

質疑 研修室などの予約方法について伺う。

答弁 LINEによるオンライン予約と窓口での受付を行う。インターネット等があまり得意でない方への対応もしっかり考えていく。